天津祝詞考

特別
イ 4
3163
159

貴
14
3163
159

是の天津祝詞考いまだ大祓詞の
古形を正し祝詞乃太祝詞乃字
宣れぬ事乃良なるを太詔乃
云ふ世に古き事乃なるの字
不審なるを思ひくらべ新玉の
手招くなる試の筆の中なる物の
見求め給ひて事乃巫者乃

おゝ保明親王の石碑を建て
山陵かきあれて欽慕の情を描き
遠きを探り深きを尋ねる人々の苦労の
事と彼太祝詞考序の代々の傳まかりて
所々を考へ
回々心を此方に向けて秘蔵

校正の人々に写本と共に考果
かたと慨て欽きて筆に任せの
心あるまゝ書る所の因先生
こゝ記まゝ考へたる古くたの稿本の
極み為るまゝ所々に考へ
其由為るまゝ出羽の国の
為るまゝ伝へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年號七月の吉日の吉辰を卜して

[illegible]

伊勢國伊遵里人 筆田芳亂

大祓太詔刀考れ卷首ゑ志ゐ安

禊祓の神事はじめも神伊邪那岐大神れ豫

母都國れ穢を祓ひ給ふゐ始まゑ速須

佐之男大神の天津御國の御荒びゐ就て

太れ事有りしよゑ次て御世て絶え行ひ給

ふゐ亦天乃下治給ふ大御政事の中ゑ

最も重れ神事ゐ坐ば欠のし然ゐ中ゑ

御世ざろ漢學び佛意れ弘はれる余ゑ此

神事も粗畧ふ成り。其詞を誤讀謬を成り。
靈幸ふ神は御稜威母幸ひ成く世は中ふ。
千速ぶる禍事ぶも多く有りぶ成れ。甚歎加
はし紀事ふこ成ぶ。然し母衰ぶ成れより終
ふぶ。其天津祝詞ふは中に失ひて大祓詞
成ふも其ふ成と思ふばかりふ成來した。
甚母慨くい。ぶ成悲紀事は極邪成りり。大
祓詞の母有て。天津祝詞のふ紀は譬ぶば。

國ふ君無く家ふ人ふき如くふる。詮れき
こぶふこそ斯て縣居鈴屋兩大人は。大祓
詞をし考訂ふる。解說をも加ぶ成ぶ
ら成最正は成りる物から。彼天津祝詞
ふは心付給はぶ敘有けぶ。ふ我ぶ父。
年頃ふの事成歎ぶ思ふに餘成ぶ。朝夕ぶ。
天地は諸神等ふ幣ふきて乞祈申されぶ
ふ驗成けり。其天津祝詞をし速くも見

暴はし。數多け卷く參考ふ。其正文を改め
記さる。注解をもふ爲し給ふ事を密。
其大御詞の彌かこれ。いよ〳〵尊く外年
仰ぎ奉らば〳〵。斯の有て。彼大人等乃訂正
さまふ。大祓詞を同く。最も珍ぎ古へ。
御寶文ぞ稱申奇ぎ。本ちめ直毘
け御靈の。運來るふや有りむ。大凡二
百年餘ふけの。古學け道起ふ初る

ちめ此神事も。さ〳〵や彼處を。執行ふ者も
出來る〳〵。枉業等け薄ぎ。物を古ふ
復ぎ狀の。加る〳〵見え來しは。彼凶
事ふ。吉事い。を道理ふて。いを〳〵惜く
れむ。この天地の大御神ぎち。辭別て
祓戸大神ぎち。相宇豆那け。相口會給ひる。
次〳〵け神事け。眞盛ふ成行て。挂卷も畏
この礼ぞも。

天皇命は大朝廷をはじめて。大八洲は國と處と殘。預り治め給ふ諸侯方はで後。古事を立加へ定めて。此神事をし普く廣く執行ひ給はむ由もぞ有。かゝる畏みゝ母かゝ申れも。父小隨ひて學問は道小仕奉る事ぞ。平ひ定め篤眞。かゝ記せ流時は。文政五年とし云としは五月十六日。

吳秋田人

大祓太詔刀考

平篤胤謹撰述

門人　參河國　鈴木重野
　　上總國　柴田義信
　　武藏國　内山景壽

同校

禊祓の神事はしも。古史傳小委く注事流如く。祓戸神四柱は御靈小賴て。万は枉事罪穢を祓ひ清む流事ぞれむ。神代紀ょ素盞嗚尊小。千座置戸は解除を科ぞる處小。使天兒屋命掌其解除之太諄辭而宣之。と有る太諄辭は。必古は四柱神小禱白ひ詞ぞ申ひ。むこぞ灼く。はさ後は大祓の神事もそは天津宮事を以て行ふ事ぞれむ。必此神

あちゐ禱白に。天津祝詞の無くては。得有まじ理ある事ゐ。其太祝詞の傳たらざるたゝいをも歎くはなく。悲しき事ゐ。然るを世れ事識人さち。祝詞式れる大祓詞をやゝで神ゐ白に詞ゐと思居るたゝいと麁ゐ。其は彼詞を熟くゐ讀考ふるゐ。彼は祓戸神さち。天津神國津神。八百万神あちゐ。祓の太祝詞を申し竟て後ゐ。皇美麻命れ天降まにと。神魯岐神魯美命れ御言以て。葦原中國ゐ。ゐらもる天之益人等ゐ。過犯せる罪穢の有らむ時。大祓事を爲て。解除却るべき式法。天津宮事以氐。と云よ。太祝詞乎宣礼。と云ゐるまでよ。をく心を著て辨ふべし。はゝ其解除れ太祝詞を。天津神國津

神。祓戸神あちれ。所聞食し受給ひて。罪穢を却ひ失ひ給ふ狀をも。御言依し誨給ゐる事れはゐ〳〵。此事を爲て。百官人。及び四方國の人民れ罪穢を。天皇命の祓清め給ゐ由ゑ。集侍れる人くゐ。宣聞ゑ詞ゐ出ゑ有れ。神ゐ白に詞ゐは非ゑかし。其は彼詞の全文ゑ。ゐの乃あゝ。び讀味ひ。餘れ祝詞文と。ゑ合せ考ふるゐ。神れ御前ゐ白に格の辞とてゑ。一言あゐ無くゑて。あゝ解除し給ふ故をし爲方。はゝ罪穢の清まる狀れゑを。天津神れ依給へる御言ゐ。言ゑ加ゑて記されあるゐて。集侍れる人くゐ。宣聞せ給ふ詞あるゑと。更ゐ疑ゐ趣あるゑや。其を委く言はゝ。最初の文ゐ。天皇

朝廷尓仕奉留比礼挂伴男手襁挂伴男鞆負伴男剱佩伴男能八十伴男乎始氐官〻尓仕奉留人等乃過犯家年雑〻罪乎大祓尓祓尓給比清給事乎諸聞食止宣と見え終文ても大祓尓祓尓給比清給事乎諸聞食止宣と云ゆて負觀儀式ゟ称聞食ト云ふ皆称唯とあるを思ふべし但し餘の祝詞どもゟ其を神ゟ白し於〻も参集れる人等ふも聞べき由を宣ることもあれバ其等と同じ趣ふ思ふ人丈有ぢゟれど右のあぐひふ白ゟ祝詞ゟは某〻の神ゟ白ゟ例の言けあ丈て紛ふ〻事ふきを彼詞ゟハ曾て然る詞け無れバ神ふ白ゟ詞ふあらぬこゝ疑ふきもけぞ〇此ゟ就て猶按ふゟ朝野群載ゟ彼詞ゟ中臣祭文とて舉さるを〻ゟ〻このしこ文の異ゟるも有ゞ中ゟ式ゟハ自今日始氐罪止云罪波不在止高天原尓耳振立氐聞物止馬牽立氐とある文を自今以後遺罪止云罪咎止云咎八不有止祓と給比清給事祓戸乃八百万乃御神達八佐乎志加乃御耳乎振立天聞食止申とあり此も師も加茂翁も言れさる如く中昔の人け古の事をも意を丈ゟらて漫ふ詞を替さるもけふる事ハ論ふきゟのゟら其も式ふ人〻ふ宣聞ゟ詞ゟて神ゟ白ゟ詞ふ良ぬことを心著る人の彼詞をやがて神ふ白ゟ詞ゟ爲むとて替さ

る事とそ思も侫〻。かゝ丶ゟば前ふは於祓戸神ゟちふ白ゟ太祝詞は別ふ有〻ゟむを式ゟは載漏されさ侫ふゟ丈と疑れし。其も彼大祓詞ふ大中臣云〻天津祝詞乃太祝詞事乎宣禮と有て如此宣良波と受ゟ侫ふ熟く心を著て思ひ辨ふぢし神ふ白ゟ丈き祝詞を別ゟ依し給ゟゆしゞ漏さ侫ふゟ丈と更ふ疑ふ丈もけゟや若然らぢとせば太祝詞事乎宣禮とも何ゟ宣る事と一のせむ如此宣良波と承ゟるは必前ふ宣べき祝詞の有て其を宣竟さる歟承て言侫辞ふゟゟそけ宣ぢき祝詞も無ゟいのふせむ加茂翁の祝詞考ゟ或人説ふ此ゟ天津祝詞とゟるも別ゟ神代ゟ丈傳ハれる言あるふらむと云るハ非ふ丈と言れ師け

後釈ホも太祝詞事ヒ即大祓ヲ中臣の宣る此詞を指るホゆと解れさきど共ヨ考へ麁ラ已しホゆれ已○或人れ有旧説ヲ泥みて予が説を信さ法ヨ近く譬へて諭しりらくヒ多ホざくホ呪禁ヒ哥を書て人ヲ化く法とて其せ戎そホヨ呪ふ法き方ヒ多ラ〳〵の事ホて此哥を誦法しかく誦多らむホハ其痛ミやラホ癒らむもれそと言ホ九已さ尾手ヨ使者途ホて其多ヨばくを失ひ消息ばラ已贈れるを受さる人そを読て此哥を誦べしとヒ即ホの世をそこの事ぞと云ひて短冊ヲ取落しさることヲ心著ズて有らむが如し大祓詞の多ふと化詞ホ法ホをヒ今さら言ヲでヒ無れども彼太祝詞言のホくては此消息ヨ等し化こと心を平ホして熟思ふ法し

ちヲ其漏多る祝詞は天御祖命の大御口於ラら傳坐法ホて

そヒ太祝詞事乎宣礼如此宣良波とある文意をよく思ふべし大御口於ラら傳へ坐るホ法こと疑れき物をや祓戸神多ちホ祈白ス詞ホる祓神事ヒ多ホ法中ホ

禊祓の神事はこの已重化事は無れヒ天津祝詞の多こ多

中ホ此祝詞むかヒ已重化祝詞ヒ於く天上ホて兒屋根命

ヒ宣給ヲる詞も其ホふる法く所思法ホ餘の祝詞ヒ悉く

傳ヒれる中ホ此のみ漏さ法ホとヒ悲し化事ヒラ化已

ホ法故ホ年頃い多く歎ヒ思ヲ已しを猶深く考ふるホ

此は別ヨ重き詞ホ法故ホ式ヲはわざと載漏されさ法

ホて然る例ヒ餘詞ヨも有已其ヒ天神寿詞ホも天都詔戸太祝刀言遠以呈告礼如此告波と見えて其詔戸は漏しさ中然れども此ヒ既く餘書ヨ已見得て古史ヨ記しさ已中臣家ホは必是を傳

られ多らむと所思多已然ヒ有れど此ういと不審き事

祓瑞穂抄と云物ヨ天津祝詞乎以宣礼と云ふ処ヲて部家ヨて唯授一人之祕文也と云ヒて宣礼ヒい哥下ホ祕文を入れて如此宣良波と後段ヨラ於るヒ然も有法れど此中臣祓の外ヨ太諄辞ヒ有るまじきホゆ或本ホ

白衆等各念此時清淨偈諸法如影像清淨無假穢取說不可得皆從因業生と云を太諄辞なりと云ひて岩出祭主流粥見祭主流なりといふ兩家共に大中臣の嫡流なり。此白衆云云の文は金剛界禮懺文と同文にて彼文に礙とあるを假字に替たるのみ異なり。六百年以前の書にも此偈を載たりとハ何書を云へるならむ。予が見たる書にてハ後醍醐天皇の元應二年に度會神主家行の著せる神祇本源に闢天之磐戸之時の呪文天津宮事の秘文とて諸神等各念此時清淨偈諸法如影像清淨無假穢說不可得皆從因業生と云ふ文を載たるを見たり。元應二年よりこの文化十二年まで四百九十六年にやならむ。然れども此文を天津祝詞なりとて唱へたるも甚舊き事なれども、かかる穢ハしき文を岩出粥見などの家にて傳へられむは如何なる事にか。また近き頃内宮の師職渋谷光博と云ふ人の三位荒木田經雅卿より授られたる大祓勤仕作法と云ふを我弟子なる岡田孝良に見せ置れたるを見たるに、太祝詞事乎以宣礼といふ処にて極汚穢も濁無礼波穢事波有良志内外乃玉垣清淨志と百度唱へて每呪錢切散供打手と見えたり。此も佛書を竊して。

後人の作れる六根清淨祓といふ物の文なるを。然しも博士と聞えたる經雅卿の太祝詞なりとて傳へられしは謂ある事なるべし。然れば其家々にては太祝詞をば否らぬ別詞の如く心得て、かかる穢き詞どもを太祝詞と思ひ混らしたりときこえ。甚も悲き事なりけり。○篤胤をぢなき身なれども。年ごろ此事はいたく心に懸りて。阿波禮。これ詞を見得てむしと深く探求たりしかば。靈幸ふ神の御心にや。其太祝詞なるべきを得て。彼これ異なる處。また誤れる言などを密に挍ざ正しぬるも有れど。學問の力は足らざらむ人は等閑に思はむ事は惜まれむ。姑らく秘藏して傳ふべき人を待て傳へむとに。○挍者等云く。是より以下は天津祝詞の考へにて。もと別巻なれど。こたび印本と為すに就て。合巻とは為せるなり。

大祓詞を宣る前に祓戸神さち及び八百万神等に祈白に天津祝詞は有りむが漏ある事は上に辨ずるが如くなる故其詞を罪穢を祓い給へむ事を祈白に〻と外れこの事ある疑なしと思ひ決定さる事は往し文化七年の冬の事なりしを頓に人の信ひくはじ紀説なる故に其一人にて大祓詞を誦をるは祓戸神さちに祈白を詞をは拙白して後に彼詞ハ誦さるしを近頃深く考ふるに世に美曾岐祓と稱ふ詞なも其太祝詞なる時う拙世かをる彼れ謬れる詞を混雜れる故に其をも覺え趣ふなれ事にぞ有けるその其かの詞

はしも世に神道者など云ふ徒の普く唱ふ名れど是故古へに天津祝詞としも辨ずに此をやがて祓といふ物ぞをち心得居る名れむ云ふも足らぬは世に古學者あちは此詞を知事や知らぬやあまくに知りさる人も正しく紀古書に記し傳ずる故に拙なに見過して心を米て味ずむをもせぬ唯に神家者流の私詞とにみ思ふ名事にて共に古へに實に暗き故に有ける其は此詞の式などに載らをぬ祓竟て後に諸人に宣を聞を謂も事大祓詞にみ載られさる事は此に神に白に詞の中にもやをを紀詞なる故に書に記ちぬ此神事に預

加依人は。次〻ふ。口授のら。傳ふ來ひし故あるぢし。其も上件ふ。天神寿詞のことを云ふるをも。思ひ合にべし。かく思ひ定免て。世ふ傳はる美曽岐祓と云詞を。三四〻ぐ所ぢ見て。考ふ定米あ依を。次〻ふ記して辨ふゆむとに。

○第一文かく顕さる事は。別義あるふ非ず。下ふ次〻論ふる。見易ろらむ料れみあゆ。

高天原ふ神留坐皇親神魯岐神魯美乃命乎以豆。日向橘乃檍原乃九柱乃神。粟門及速吸名門乃六柱乃神達。諸汚穢乎祓賜清賜倍止申事乃由乎。左男鹿乃八乃耳乎振立天聞食止申壽。

ふは詞ふ。高天原ふ云〻。命乎以豆と云て。祓戸神あちふ。

汚穢を。祓ひ清免給ふぢき由を。神魯岐神魯美命は。令せ給へる狀ふ云ふ依は。道饗祭詞ふ。高天原ふ事始メ豆云〻ぐ。八衢比古。八衢比賣。久那斗止御名者申豆。稱辞竟奉云〻。夜之守日之守ふ。守奉齋奉礼と令せ給へる了思ひ合にるふ。〻く古意ふ符ひて。必かく有ぢき文勢あ。ち也ぞ皇親と云ふ言は。第三第四文ふ。あ紀ふ從ふぢし。さて命乎以豆は下ふ。皇御祖神伊弉諾尊と云ふ言を漏せ。此はこの形ら爻有るぢき文あ。其由は。第二文は下ふ云を見〻。○九柱乃神。及速吸名門乃六柱乃神達。は太じ紀非ず。其由。第二文の下ふ云を見るぢし。○諸汚穢と云

よゐ。申壽と云ふはでは。次〻ふ云ゑ見て辨ふぢし。○ち
て此詞ゑ。謂ゐる八部祓てふ物よも見えゐ。吉田家よゐ。
弘く世ふ傳ゐらゐ〻詞れゐ。

○第二文

高天原仁神留坐寸皇御祖神伊弉諾尊日向乃橘乃小戸
乃檍我原尓御禊乃大御時成出流神波八十枉津日神神
直日神大直日神底津海童神底筒男命中津海童神中筒
男命表津海童神表筒男命祓戸乃諸神等諸障穢乎祓賜
清賜倍止白事乃由乎平久聞食止恐美恐美申須。

此ゑ高天原仁と云よゐ檍原尓と云ゐはまでは正古記

古文ふはゐ。第三文と合せ考ふるふ。神漏企神漏美乃命
乎以豆。と云ふ文を傳へ洩しゐ。ちて檍我原とゐる我
字非ふ。○御禊乃大御時ゐ云〻ゆ表筒男命ゐ云まで。
禊祓の本因を知らぢる。後世人れ。神代紀ふよゆて作ゐ
加ゐふはゐ詞れるゐと疑ふし。其は古史傳第二十四段ふ
注せる事實ゐ〻く辨へて。底津海童神以下。六柱の神等
れ。祓戸の神ふゐぬ事を曉ゐ。大祓詞よ。祓戸神四柱れ御
名は舉ゐれど。此神等れ御名の無をも思ひ合ゐ。ま
ゐ八十枉津日神ゑ。瀬織津比賣直日神ゑ氣吹戸主ふて。
此二柱ゑ。祓戸神ふ坐せども。祓戸ふては。八十枉津日神。

直日神とは申さぬ事ゝ有ア。此事古史傳ニ委くいヲりき。はさ此ニ小準ヲて。第一文ふ。九柱乃神。粟門及速吸名門乃六柱乃神達と云ヲるも。後人ハ書替さる文ふ依ふとを悟るぢし。殊ニ檍原ふて。九柱の神を生給ふとヲるも。速吸名門ふて。六柱の神を生坐アと有も。共ヲ異ふ依一書どもの傳へふるを。合せうヲ。粟門及速吸名門と云へるヲて。いよ〳〵ちて此文ふ。御禊よ後人のわざふるこゝを。灼き物ふや。乃大御時成出流。と云へ依言。後人ハ口氣ふゆ。ふは第三文ふ。御禊祓比給布時仁生坐る。と有依類の文ふアゝむを。近世人ハさかしらふ替ふ依ふゝ有べ。○祓戸諸神等。諸字非ふア。第三第四の文ふ無きふ從ふぢし。然るハ神等と云ふ。諸てふ言は籠りあれば。ふア。○諸障穢乎。と云

ふア。以下ハ文は。第三第四ハ文の下ふ云ふを見て。辨ふぢし。○ちて此詞ム。白川家ふて。傳ヲ給ふ由ふて。其流を汲む神職ふちの誦むを。聞覺えさ依ま〳〵ふ。記しふるふゝ。此ふ甚いぶかし。ふ事ふアア。其ハ伯家部類ふ。水濺祓雅富王記。ゝて。載られふるふは。高天原仁神住在須神。漏岐神漏美乃命乎以豆。日向乃小戸乃檍原乃九柱乃神達阿波乃水戸乎速吸名戸乃六柱乃神達。諸乃障穢乎。祓玉比清免給布止申寿支乃由乎。八百万乃神等。聞看土申寿。とヲア。然れど。弘く神職ふ傳ヲ給ふ詞と。内〳〵唱ヲふ詞ゝは。異れるとれども。いゝれる事ふの有らむ。

○第三文

高天原仁神留坐須神漏企神漏美乃命乎以天日向乃橘乃小戸乃檍原仁御禊祓比給布時仁生坐留祓戸乃神等諸乃障穢乎祓賜倍清女賜倍止白寸事乃由乎天之斑馬乃耳振立天聞食止恐美恐美白須。

此詞を宜しく所思る中ふ第二文と合せ考へ除ふ命乎以天と云下ふ皇御祖神伊弉諾尊を云文を脫しあゆ。

○諸障穢乎とは第二文ふもかく有れ共第四文ふ諸乃枉事罪穢乎と有るらさ勝ては有れども。○祓賜倍と云ふ以下は古文は殊ふ美あき物ふて其由下ふ記せる正文ふ釋を見て知るべし。○ちて此詞も江川安豊ぶ或神道學者ふ傳へ受さる由ふて語て聞せあるを記せゆ。藤浪家ふて唱ふる詞ふて云へる由れるは實ふてや知らぬ。

○第四文

高天原尓神留坐寸神漏岐神漏美乃命乎以天日向乃橘之檍賀原仁御禊能時成坐留神等諸乃枉事罪穢遠拂賜倍清米天賜布止申事乃由乎天神地祇八百萬乃神等共仁左男鹿能八箇乃御耳乎振立豆聞食止申寸。

此詞も皇御祖神伊弉諾尊と云詞を脫しあて然れぞ云ばての文は最先でゐし其ぶ中ふ檍賀と有る賀字例

の非なり。○御禊能時。古は第三文ふ。御禊祓比給布時仁。
ゆるかさ勝れり。○成坐留神等。古は神の上ふ。祓戸乃。
れ三字を脫しさゆ。第二第三文と合せ見て知るべし。然れ
ども無ても通えぢるふは非ず。○清米天ゆる天字は。
後世ざはの非古ゆれり。ちて賜倍止と有るべき歟。賜布止
ゆ有るは。此も後世の非事なり。○左男鹿能八箇乃御耳。
此も第一文ふもかく有ゆ。はさ朝野群載ふ。大祓詞を。中
臣祭文。とて舉さ依ふも斯く有て。鹿も耳疾き獸なれど。
理はさ依事れども。此は第三文ふ。天之斑馬乃耳振立豆。
と有る方。大祓ゝ時ゝ。馬を出して。其詞ゝ。高天原ふ耳振

立豆聞物止馬牽立氐。と有ふ符ゆれど。彼ふ從ふぢし。ち
て春日社ふて。此詞を唱ふる時も。かゝらぢ左男鹿乃。云
云と云ふゆゆ。然も有らば。左男鹿乃とある詞どもは。彼
社ふて云ゆ依詞の。世ふ弘ざれる依ゆ。○ちす此詞
は。垂加流の神道學者ゝ。春日神社の傳なりゆて。授り
ある例り。はさ或人は。香取社ゝなりとも云ゆゆ。なを此餘ふも
禊祓詞とて。聞集ゆさるゆ多かれど。大凡右ふ挙さ
る四文ゝ違ふこと無ゝ。悉くは得物せ難ふむ。
○右ふ論ら依詞ゆもゝ中ふ。古實ふ符へゆと思ふか
だゆを採撫ひて。正文を定むゆ。

高天原尓。神留坐須。神漏岐神漏美乃命乎以豆。此は第三第四の文

ホ依れ已。但し命乎以
豆の乎ノ字。ホなる方宜し。皇御祖神伊弉諾尊。ホは。第二の文ホよれ已。
日向乃橘乃小戸乃檍原尓。ホは。四ツの文共了かく有り。但
の三字脱さゆ。御禊祓比給布時仁。生坐留ホハ。第三文了なる。祓戸乃神
等。此も。第三の文ホ依れ已。但し
第二。第四れ文も。同じ意ホゆ。諸乃枉事罪穢乎。拂賜倍
清米賜倍止申事乃由乎。天神地祇。八百萬乃神等共仁。ホは。
第四文ヨ依る。但し清米天賜布止。とある天字を除き。
布を倍と改免さるも。第一。第二。第三の文ヨ依れ已。
天之斑馬乃耳振立天聞食止。恐美恐美白須。ホも。第三文了依ゆ。
かく撰び定免て。熟く讀味ふヨ。最も珍ホ妃古文ホて。彼
天津祝詞乃太祝詞ホることと疑ホし。但し日向の上了。筑紫二字有りしが脱さ
るホゆ。故古事記。まさ御紀の一書ホ。此ことあるホ依りて
補ふ。まさ祓戸乃神等。ホは私了申さむ了も。神字の

上了。大字を加ヲて。祓戸乃ちて正文ヨは成ヨ〳〵ヨ。本ホ
大神等。と称へ申ヨ。
已讀方の誤れるも少からず。ホは文字用格れ紛らはし
妃も有れむ。其はみれ補ひ訂し。更ホ正文を改免記して。
粗それ注解をも加ヲむヨに。

高天原爾神留坐須。神魯岐神
タカマノハラニカムヅマリマスカムロギカム
魯美乃命以氏。皇御祖神伊邪
ロミノミコトモチテスメミオヤカムイザ
那岐命。筑紫日向乃橘乃小戸
ナギノミコトツクシノヒムカノタチバナノヲド

乃阿波岐原爾。御禊祓比給布時仁。生坐留祓戸乃大神等。諸能枉事罪穢乎。祓賜閉清米賜閉登申須事乃由乎。天津神國津神。八百万能神等共仁。天之

斑馬乃耳振立天。聞食世登。恐美恐美白須。

高天原は事は。古史傳まさ雲れみむしら。ふ委く注ず已。○神留坐須は神も。神集神議ふどは神と同く。崇辞ふ冠さる外已。故加微坐ちむも非外已。留は妄れたち字は如く。留てふ古とふ体を。都麻理と云ふも古言ぬ已。委くは。師の大祓詞後釈ゑ。云はれふるぐ如し。此は皇美麻命は。高天原を離れて。此國ふ降坐る不對ず。降已坐ちぐ体神を。留坐須とは申せ体ふゆ。○

神魯岐神魯美と申に御號の古ゑは古史傳ふ委く云へるごとく皇產靈神ゑ天照大御神とを申に二ゑも有れど此は高皇產靈神皇產靈神を申せ已○命以氏は御言以氏れ義ゆゑ此を此方でれ文は天津神の御口於らられ語ふも非ず皇美麻命天降坐て後ふ此を唱ふる時ふ冠て申せる文れるごとは灼きもれこら文ふ三ッれ義ゆ已其一ッは伊邪那岐命ゑいふよ係已て神魯岐神魯美命の大詔命以て依し給ふるはゆ〳〵事始ゆ已へる伊邪那岐命の云く〻と云ふる義ゆ已二ッふは祓比賜閉清米賜閉と云ふ係已て道饗祭詞よ高天原ふ事始ゆ已云く八衢比古八衢比賣久那斗止御名者申已稱辞竟奉云く夜之守日之守ふ守奉齋奉礼とのゆて塞神ゆちふ令せ給ふ係ごとく此も祓戸神さちふ祓ひ清免給ふ由を神漏岐神漏美命の令せ給ふ係由ゆ大祓詞と考へ合せて此意を知ゆ辨ふ也し三ッふは聞食世と云ふ係已て高天原ふ神留已坐に神漏岐神漏美命れ御言依さし給ふる天津詔戸れはふ〳〵白に事を祓戸神さち天津神國津神八百万神さち共ふ聞食せゑ云ふる已ゆ已〳〵ゑば皇御祖と云ふよゆ聞食世と云はでは天祝詞ふて前後の文は此を申せ係人れ詞ふ已熟く文ふ心伐著けて讀辨ふ已し○皇御祖とは

伊邪那岐大神は皇美麻命の大御祖ゐ坐せばゐ。○神伊邪那岐命神を崇奉て冠ゐるゐて神速須佐之男命と申ス神の如し。此ゑ上ゐ拔けて皇御祖神とよむを非ゐ。其を鎭火祭詞ゐ神伊佐奈伎伊佐奈美乃命と有るを合せ考ゑて天津祝詞ゑハ神伊邪那岐命を宣ひ給む事を思ひ徵安ぢし。○筑紫日向乃橘乃小戸乃阿波岐原ゑ御禊祓比給布時ゑ。ゑれ事は古史傳第二十三段ゐ委く云ゑるを見る可し。○生坐留。こは阿礼麻勢留と訓ぢし。ナリマセルを訓ム非ゐ。阿礼は現といふを同言ゐ。くはしくは古史傳ゑ云ゑるを見ム。○祓戸乃大神等をは古史成文の御禊段ゐ出さ

流。八十枉津日神。大直日神。伊豆能賣神。速佐須良比賣神。四柱ゐ。大祓詞ゑ瀨織津比咩と有るは八十枉津日神。伊吹戸主と有るを大直日神。速秋津比咩とあるは伊豆能賣神ゐ依由。まゝ此神ゐを祓ひ給ふ功ゐを此ゑとは古史傳ゑ具ゑ注ゑ。此ゑ云ゑ。○祓比賜閑清米賜閑。登申須事乃由乎。天津神國津神八百万能神等共仁。云〻聞食世と申ス此ゑとは大祓詞ゑ天津祝詞乃太祝詞事乎宣礼。如此久乃良波。天津神波天磐門乎推披氐云〻所聞食武國津神波高山之末短山之末ゑ上坐氐。云〻所聞食武。如此所聞食氐波。云〻速川能瀨ゑ坐須瀨

織津比咩止云神。大海原尓持出奈武。如此持出往者云く。
と云ひて。天津神國津神のまゝ聞し食て。ちて祓戸之神
ゑちの。祓ひ功を成し給ふ趣をふるふ符ひて。いとも尊ち
文れ。ちかし。○天之斑馬乃耳振立氐は。大祓の時ふ。馬を
出ち。其詞ふ。耳振立聞物止。馬牽立氐。とあるふ符ひて。
いゑ〳〵ゑ偖さし。此ふ依ゆて考ふ所ふ。解除ふ馬を牽
ちとは。祓物ふは非ゑて。神さちれ。耳聰く祈言を。ちこし
食し給ちむ事れ。祝代ふ。奉ふゑ有ける。○ちて此詞は。
馬ち引立て。式のは〳〵ふ。大祓事を爲て。祈白ひとき。全
文を申ちむも。然る事れゑら。常ふ祈白ひて。天之斑馬

乃耳振立氐。と云ふ詞ち。省ち。申ゑ。ち。き理ふれども。全
文を申ち。ち。も。非事ふ。ばならゑ。偖ま。さ後世ふは集れる
諸ふ。宣聞ひ大祓詞を。神ふ白ひさ。非事ふ所ふ。況て太
祝詞事乎宣礼。と云ふ下て。太祝詞ぞと心得さる文を。
唱ふるちゑも。非事ゑおゑも。必ま。神ふ。太祝詞を白し
て後ふ。大祓詞を唱ふ。き者ふゆ。此式は。神祇式ふも詳
ふは見えぢる。内宮年中行事ふ。六月十六日れ。川原御
祓の處ふ。御巫内人。向御前方。申詔刀。と有ゆて。其詔刀ふ。
神事ふ供奉る人等を。清浄ふ。祓ひ清ゑる。御饌の神事
ふ清浄ふ仕奉ら。ちゑ給。といふ趣を。祈ま。ち。し竟て

後ふ。榊の枝を河ふ流ス時ヨ。各く中臣祓祭文を讀ミし。見え為ふて悟るぢし。此ヒ然ミがふ。大御神ハ神事ヲ忘れ給ふ。故實の殘れ事もれと云ふ所思ひ也。

文化十二年四月三日ふ考ヲ畢ル　平田篤胤

錦胤云。古ハ天津祝詞の考、はしも。我父ハ早く著ち也し書れる事ヒ。上ふ年月の有ふて知ぢし。此のち古史徵の開題記ヨも說記ち也。猶ま之考ヲ補ヒれ為る事ふきふ非ず。其ヒ大祓詞再釈ヨ就て見ぢし。かくて篤眞と云、るハ。己ゲ前名ふるを。文政ハ末頃ふ今ハ如く改名之ず。

追書

伊吹迺屋先生及門人著述刻成之書目　塾藏版

○古史成文　神代部　三卷
○古史傳　自初卷至廿八卷　七袂刻成
○神代系圖　折本箱入　一帖
○靈能眞柱　二卷
○太元圖說　石摺　一幅
○祝詞式正訓　一卷
○弘仁歷運記考　二卷
○天津祝詞考　一卷
○童蒙入學門　一卷
○赤縣太古傳　初帙　三卷
○古史徵　神代部六冊　開題記五冊　十一卷
○古史本辭經　五十音義訣　四卷
○同　小折本　一帖
○神拜詞記　一帖
○玉多須喜　二帙　十卷
○古語拾遺校訂　一卷
○神字日文傳　疑字篇附　三卷
○大祓詞正訓　折本　一帖
○皇典文彙　三卷
○入學問答　附著述書目　一卷
○赤縣太古傳成文　一卷
○刻成書目　○全
○古史本辭經　五十音義訣　四卷
○同　掛軸料　一枚
○同　二帙　十卷
○度制考　二卷
○古史年歷編畧　一帖
○學神号　石摺　一幅
○大扶桑國考　二卷
○三五本國考　二卷

○鬼神新論　一巻
○俗神道辨 講本　四巻
○出定笑語 講本 附錄　凡六巻
○武道祖神号 石搨　一幅
○木匠祖神号 同　一幅
○立言文 石搨　一幅
○春秋命歴序考　二巻
○宮比神御傳記 御影付　一巻
○古道訓蒙頌　一巻
○荷田翁啓文　一巻
○祭典略 祭文例附　一巻
○大道或問　一巻
○古今妖魅考　三巻
○静乃石屋 同　二巻
○伊吹於呂志 同　二巻
○衣食住神号 同　一幅
○太昇古易成文　一巻
○德行式 同　一幅
○鑒宗仲景考　一巻
○天満宮御傳記略　二巻
○神德畧述頌　一巻
○草木撰種錄　一枚
○古學二千文 読例付　一巻
○說文解字序　一巻
○古道大意 講本　二巻
○西籍慨論 同　三巻
○悟道辨 同　二巻
○鑒祖神号 同　一幅
○太昇古暦成文　一巻
○赤縣歴代尺圖　一枚
○牛頭天王暦神辨　一巻
○日女島考　一巻
○叶古要略　一巻
○魂魄分属圖說 石搨　一幅
○千字文　一巻
○石搨類　凡廿餘種